

# 強くしなやかな社会をつくり 「三つのリスク」に備える

山梨県は①感染症②自然災害③事故・犯罪の三つのリスクに対して強くしなやかな社会の実現をめざします。こうしたリスクから県民の皆さんの生命と財産を守り抜くことは、県に課せられた最優先の使命です。皆さんがこの山梨の地で、それぞれの持てる可能性を最大限開花させるため、県はこの三つのリスクに対する備えを万全にし、生活の不安を取り除くことに全力を尽くします。



## ①感染症に対する強靱化

**必要な方に必要な医療を届けるとともに「命」と「生活・経済」の両立をめざす**

### 最高水準の体制をさらに充実

必要な方に必要な医療を届けるため、病床や宿泊療養施設の確保をはじめとした新型コロナウイルス感染症対策をさらに前進、充実させます。

現在、病床と宿泊療養施設を合わせて1500人以上の方が、施設で治療や療養ができる体制となっています。この数字は、人口比で全国最高水準の受け入れ能力です。これに加えて、医師などの健康観察を受けながら自宅で療養する「退所後ケア」や「やまなしホームケア」の仕組みを整え、常に医療が寄り添う医療提供体制としていきます。

### 感染症専門人材の養成

県内には、感染症の専門医が1人、感染症に精通した看護師「感染管理認定看護師」が23人います。これらの専門資格を持った医師や看護師が増えると、感染症への対応が一層強化されることは間違いありません。

そこで県では今年度から、山梨大学医学部附属病院や県立中央病院が行う感染症専門医の養成の取り組みを支援し、また県立大学が感染管理

認定看護師を育てる教育課程を開設するための準備を進めます。

こうした取り組みによって、県内で感染症専門医5人、感染管理認定看護師60人の確保をめざします。



感染管理認定看護師は院内の感染拡大防止対策の中心となる

### 「対策強化」で経済にアクセラ

ウイルス検査体制の充実やワクチン接種の加速化を図ります。加えて、グリーン・ゾーン認証制度の対象となっていない事業者が行う感染症対策への助成など社会全体の対策を強化し、命と生活・経済の両立をめざします。経済のアクセルを踏み込むタイミングを逃さないよう、感染状況を注視していきます。

【② 自然災害に対する県土の強靱化】  
緊急性の高い防災・減災対策などに  
重点的に取り組む

― 防災・減災対策を推進

公共事業費には前年度を大幅に上回る93.1億円（令和3年度2月補正予算を含む）を計上しました。

国内では大規模な自然災害が多く起きていることから「県土の強靱化」は特に緊急性が高い事業です。水害に備えた河川整備や土砂災害への対策、ため池の耐震化などの防災・減災対策事業に重点的に取り組み、県民の皆さんの命や財産を守ります。

― 富士山噴火に機動的に備える

富士山は噴火するまでどこに噴火口ができるか特定できません。また、被害は広範囲にわたります。

富士山でどのような噴火が起きたとしても、県民や観光客の皆さんの安全を守ることが重要です。そこで、噴火口の場所に応じて適切な位置に現地対策拠点を設置できるよう、必要な車両や資機材を整備し、機動的に対応できる体制を整えます。



河川整備前後の鎌田川(中央市)

【③ 事故や犯罪に対する強靱化】  
交通事故や犯罪が起こりにくい社会をつくる

― 子どもの安全と地域の防犯

昨年6月、千葉県八街市やちまたで通学路を下校中の小学生の列にトラックが衝突し、児童5人が死傷する痛ましい交通事故が発生しました。



子どもが安心して通れるように横断歩道などを整備する

今年度は、県独自の対策として、通学路だけでなく小学校や放課後児童クラブ、保育所などの周辺道路でも横断歩道などの緊急整備を実施します。

こうした取り組みによって、点検で対策が必要とされた約700カ所すべてで安全対策が完了し、県内全域で子どもが安心して歩くことができる環境が整います。

また、地域の見守り役となり犯罪の予防につながる防犯カメラを設置する市町村や自治会などを支援し、地域の防犯力を強化します。

これを受け山梨県では、警察と学校、教育委員会、道路管理者などが連携して、小学校の通学路にある危険箇所を点検しました。その結果対策が必要とされた箇所に、横断歩道などの交通安全施設を整備しています。



犯罪などの発生を予防する防犯カメラ